

A photograph of a modern, brightly lit subway station. The ceiling is a series of arched, vaulted sections with recessed lighting. The floor is a mix of light and dark tiles, with yellow safety lines marking the edges of the platform. People are walking through the station, and there are digital displays and advertisements on the walls. The overall atmosphere is clean and modern.

2023年8月7日

Osaka Metro Group

2023年度（2024年3月期）第1四半期決算

1. 2023年度第1四半期 連結損益計算書（総括）

新型コロナウイルス感染症からの回復に加えバリアフリー料金制度※の導入もあり、鉄道の運輸収入などが増加。また、動力費等の増加や車両新造・更新等による減価償却費の増加などがあったものの、引き締まった経営施策の推進により、増収増益を達成。

※同制度で収受した料金は将来にわたり全てバリアフリー設備の整備費等に充当

(単位：億円)

	2023年度 1Q	2022年度 1Q	増減
営業収益	451	392	+59 (+15.0%)
営業費用	350	336	+13 (+3.9%)
営業利益	101	56	+46 (+82.4%)
営業外損益	3	4	▲0
経常利益	105	59	+45 (+76.7%)
特別利益	13	9	+4
特別損失	13	8	+4
法人税等	32	18	+14 (+77.2%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	72	40	+32 (+78.6%)

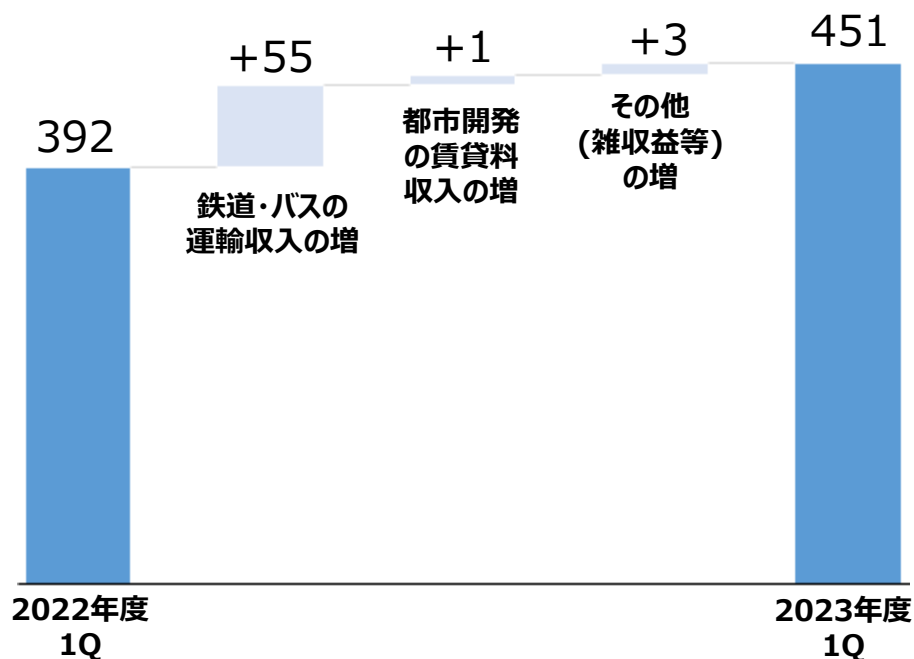
2. 2023年度第1四半期 営業収益・営業利益の増減要因

営業収益は、鉄道・バスの運輸収入が増加したことに加え、都市開発事業の賃貸料収入の増加もあり、59億円の増収。

営業利益は、鉄道の動力費等や減価償却費の増加、都市型MaaS構想実現に向けた戦略経費の増加等があったものの、営業収益の増加により、46億円の増益。

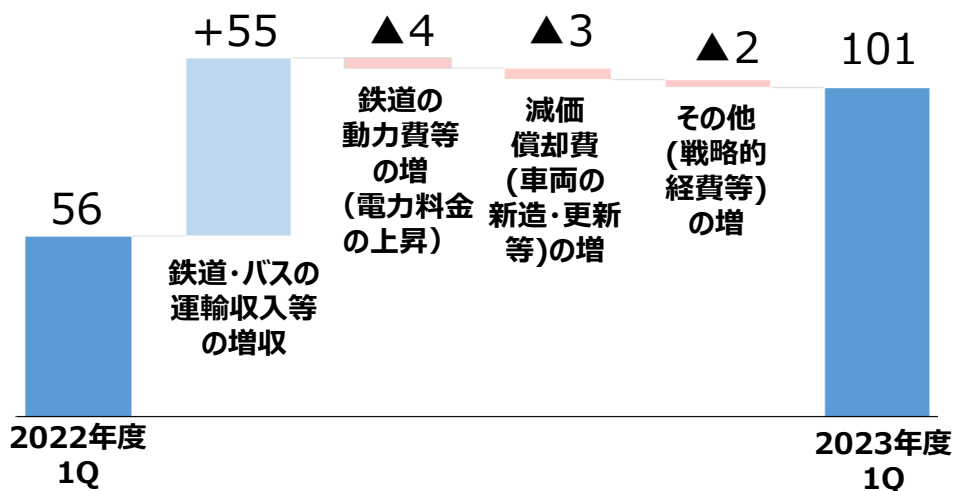
営業収益

(単位：億円)



営業利益

(単位：億円)

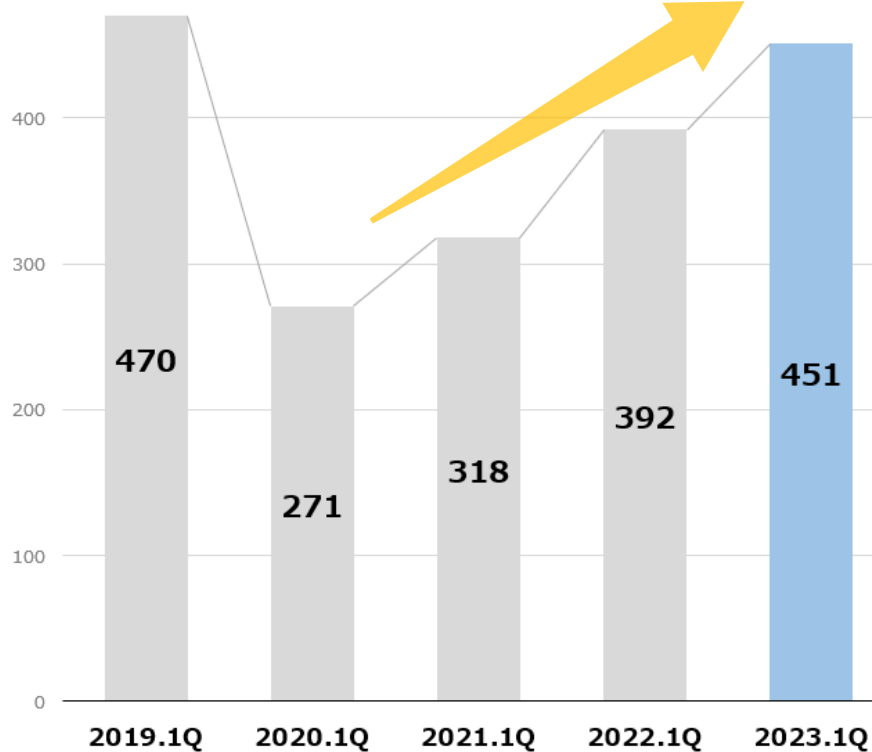


3. 2023年度第1四半期 連結業績の推移

営業収益は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて落ち込んだ2020年度から、運輸収入の増加などで3期連続の増収。営業損益は、営業収益の増加に加え、経費の効率的な運営の取組みもあり増益を達成。

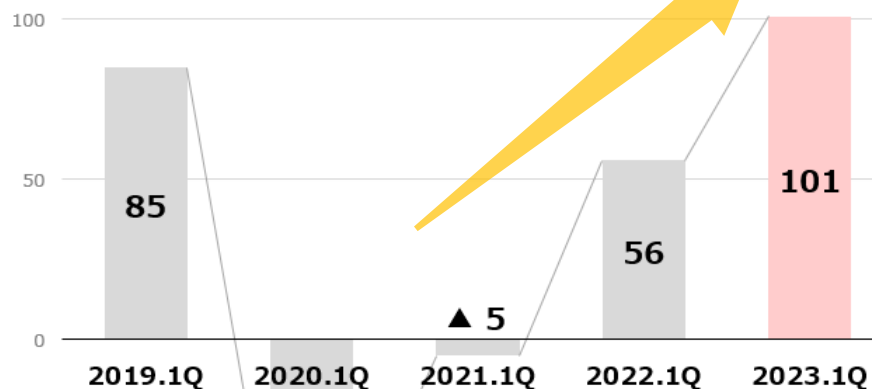
営業収益

(単位：億円)



営業損益

(単位：億円)



4. 2023年度第1四半期 セグメント別の状況（総括）

鉄道・バスの運輸収入が回復した交通事業をはじめ、都市開発・広告事業は、増収増益を達成。マーケティング・生活支援サービス事業は、地下街や駅ソトの直営店舗の収益貢献等により増収となったものの、先行経費の増加等により、増収減益。

(単位：億円)

	2023年度 1Q		2022年度 1Q		増減	
	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益
合計	451	101	392	56	+59 (+15.0%)	+46 (+82.4%)
交通事業	419	96	363	50	+56 (+15.4%)	+46 (+91.2%)
鉄道事業	390	94	336	50	+54 (+16.0%)	+44 (+89.1%)
バス事業	33	2	30	1	+3 (+10.7%)	+2 (+259.2%)
セグメント内取引消去	▲5	(-)	▲4	(-)	▲1 (-)	(-) (-)
マーケティング・ 生活支援サービス事業	28	3	27	3	+1 (+3.9%)	▲0 (▲11.6%)
都市開発事業	6	2	5	1	+1 (+20.3%)	+1 (+53.2%)
広告事業	8	1	8	1	+0 (+6.6%)	+0 (+18.3%)
その他	▲10	▲0	▲10	0	+0 (-)	▲0 (-)

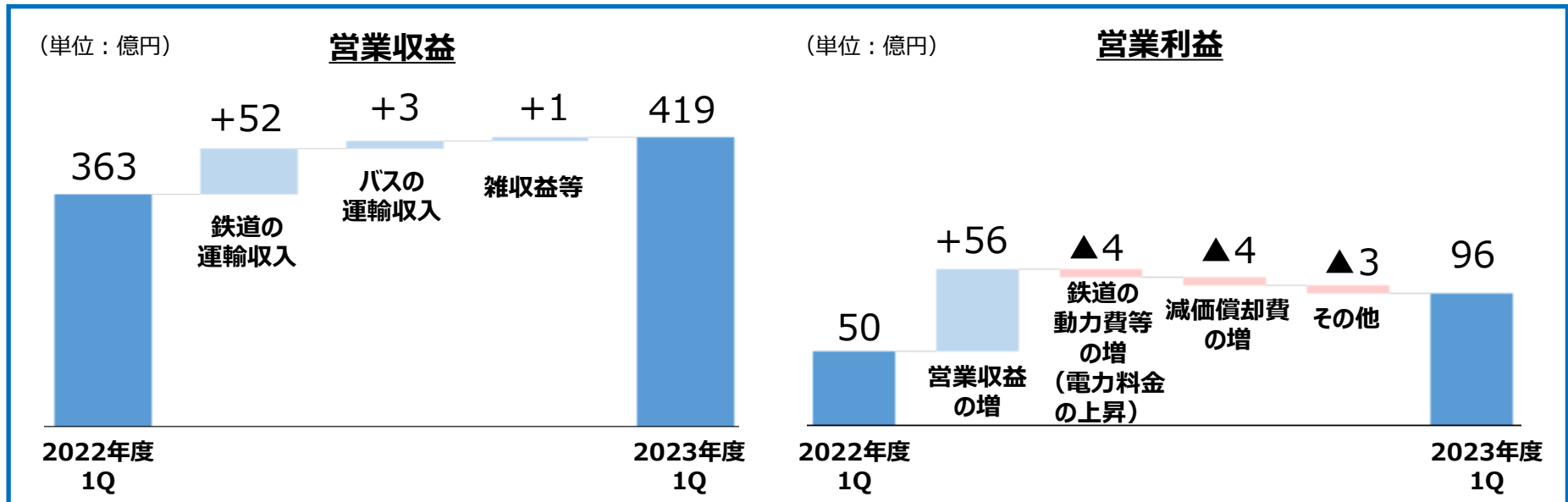
※「その他」には、グループ内受託事業およびセグメント間内部取引消去を含みます

5-(1). 2023年度第1四半期 交通事業の状況

営業収益は、乗車人員の回復に加えバリアフリー料金制度の導入もあり、56億円の増収。
 営業利益は、鉄道の動力費等や、車両新造・更新等による減価償却費の増加などがあったものの、
 営業収益の増加により、46億円の増益。

(単位：億円)

	2023年度 1Q	2022年度 1Q	増減	
営業収益	419	363	+56	(+15.4%)
営業利益	96	50	+46	(+91.2%)

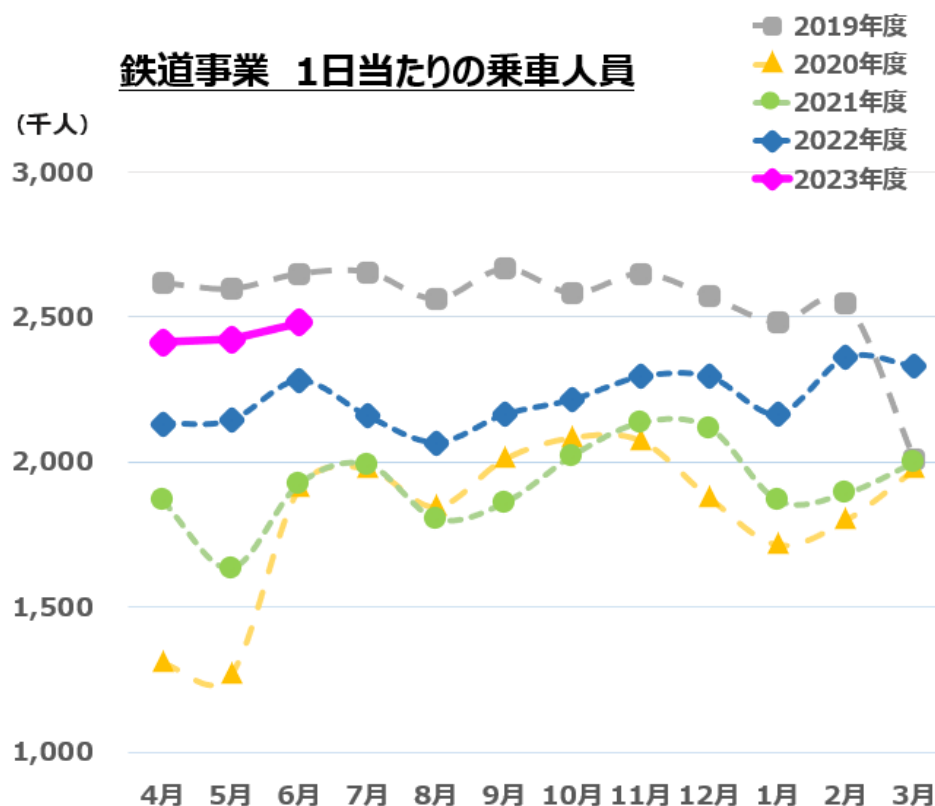


5-(1). 交通事業（鉄道）の乗車人員と運輸収入

前年同期に比べ、乗車人員は、23百万人（+11.6%）増加。
 運輸収入は、乗車人員の増加に加えバリアフリー料金制度の導入もあり、52億円（+16.4%）増加。

(単位：千人、億円)

		2023年度 1Q	2022年度 1Q	増減
乗車 人員	合計	221,851	198,827	+23,024 (+11.6%)
	定期	114,920	108,494	+6,427 (+5.9%)
	定期券	80,190	73,853	+6,337 (+8.6%)
	マイスタイル	34,730	34,641	+89 (+0.3%)
	定期外	106,930	90,333	+16,597 (+18.4%)
運輸 収入	合計	372	320	+52 (+16.4%)
	定期	156	145	+11 (+7.8%)
	定期券	97	88	+9 (+10.2%)
	マイスタイル	59	57	+2 (+4.1%)
	定期外	216	175	+41 (+23.4%)



5-(1). 交通事業（鉄道・バス）の主な取組み

安全・安心の取組みに加え、各種イベントやキャンペーンなどの増収に向けた取組みを推進。

安全・安心の取組み

<可動式ホーム柵の設置>

鉄道駅バリアフリー料金を活用して、お客さまのホームからの転落、列車との接触事故を防止すべく、2023年度は四つ橋線・中央線の5駅に設置予定。



<車内防犯カメラの設置>

中央線新型車両5列車に設置。



<信号保安設備の更新>

重要な信号保安設備である谷町線のATC地上装置(自動列車制御装置)の更新工事に着手。

<地下空間の大規模改革>

心斎橋駅のグランドリニューアルが完了。動物園前駅など5駅のグランドリニューアル工事を実施中。



増収に向けた取組み

<タイアップ企画の実施>

沿線観光資源の発掘・情報発信、沿線ブランド向上によるお出かけ需要の創出。人気アニメやキャラクターなどとタイアップし、沿線を回遊しながら楽しんでいただくデジタルスタンプラリーを実施。



©Sony Creative Products Inc.

<「オンデマンドバスみんなで乗車キャンペーン」の実施>

複数人での利用促進と認知拡大を目指し、同一の予約で2人以上ご利用のお客さまに次回の乗車が無料となるキャンペーンを実施。



<Osaka Pointの利用拡大>

4月13日より、Osaka Pointがe METROアプリで利用可能になったことを記念して「Osaka Point スタートキャンペーン」、「e METRO ログインキャンペーン」を開催。

<臨時バス・貸切バスの運行>

ネモフィラ祭りなどで臨時バス、貸切バスの運行を実施。

5-(1). 交通事業（鉄道・バス）の主な取組み

お客さまサービスの向上に加え、2025年大阪・関西万博に向けた取組みについても着実に推進。

大阪・関西万博に向けた取組み

<新型車両>

中央線新型車両 5 列車導入。
6月25日より営業を開始。



<乗り換え利便性の向上>

弁天町駅において、中央線とJR大阪環状線との
乗り換え利便性を向上するため、駅改良工事を実施中。

<夢洲関連工事>

5月24日にシールドマシンが
夢咲トンネル部に到達。
万博会場へのメインアクセスルートである
(仮称)夢洲駅とコスモスクエア駅間の
鉄道トンネルが貫通。



<中央線メロディ制作>

夢洲アクセスへのワクワク感を醸成する
列車接近・発車メロディの制作に着手。

お客さまサービスの向上

<日除けテント設置、植樹実施>

猛暑対策・都市緑化として、中浜
(南行) 停留所に日除けテントを
設置し、沿線に植樹を実施。



<車内wi-fi>

中央線新型車両 5 列車に設置。

<EVバスの導入>

温室効果ガス排出量削減とともに
脱炭素に向けた取組みを目指して
導入する、当社初のEVバスが納車。
万博までの期間も路線バス等として
活用し、今後174台の導入を予定。



<工事関係者専用通勤バスの運行>

工事関係者の自家用車による通勤に替え、通勤バスを
運行することにより、渋滞の緩和に貢献。

5-(2). 2023年度第1四半期 マーケティング・生活支援サービス事業の状況

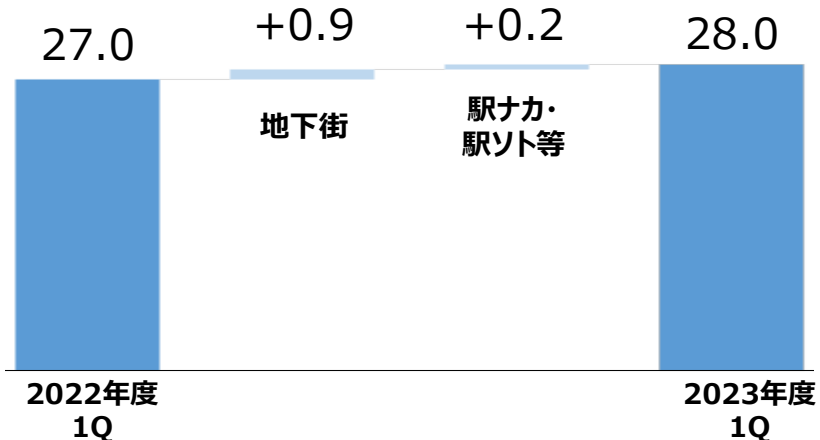
営業収益は、地下街や駅ソトの直営店舗等の貢献により増収。
 営業利益は、先行経費等の増加により減益。

(単位：億円)

	2023年度 1Q	2022年度 1Q	増減	
営業収益	28.0	27.0	+1.1	(+3.9%)
営業利益	2.9	3.3	▲0.4	(▲11.6%)

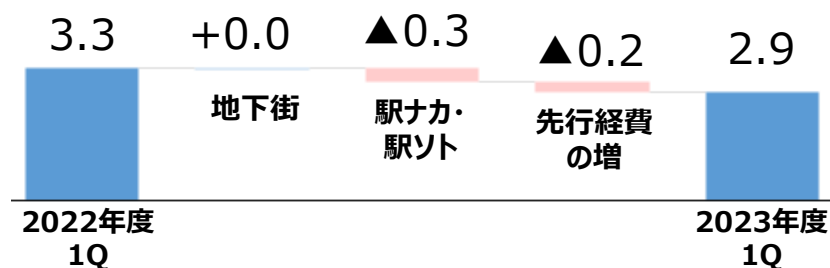
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益



5-(2). マーケティング・生活支援サービス事業の主な取り組み

駅ソトでのサービス向上への取り組みや大阪のものづくりを通じた活気あるまちづくり、地下街や駅ナカなどのフィジカル空間での生活利便性やまちの賑わいにつながる取り組みを推進。

駅ソト

<フードトラックプラットフォーム事業「Metruck」>

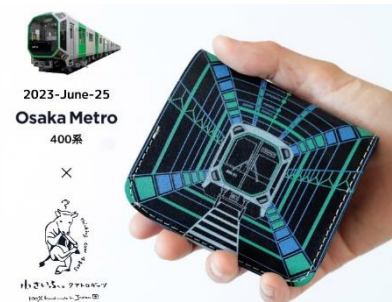
4月18日から、淀屋橋・本町・心斎橋エリアを中心に、土地所有者と出店場所確保に悩む飲食事業者をマッチングし、フードトラックの出店をサポートするサービスを開始。駅周辺の利便性向上と賑わい創出に貢献。また、スパイスカレーなどを販売する新規直営フードトラックもオープン。



Osaka Metroクリエイト

<中央線新型車両400系とのコラボ商品を発売>

大阪のレザーブランド「クアトロガッツ」とのコラボ商品第2弾として、中央線新型車両400系デビュー記念モデルの「小さいふ」を企画。400系の運行開始日である6月25日より販売を開始。



地下街

<6地下街共通デジタル商品券の販売>

昨年度に引き続き、5月26日から6地下街共通デジタル商品券を販売。(総額5億円) チャージ額に対して5%のプレミアムが付き、購入日より最大180日間の利用が可能。

5-(3). 2023年度第1四半期 都市開発事業の状況

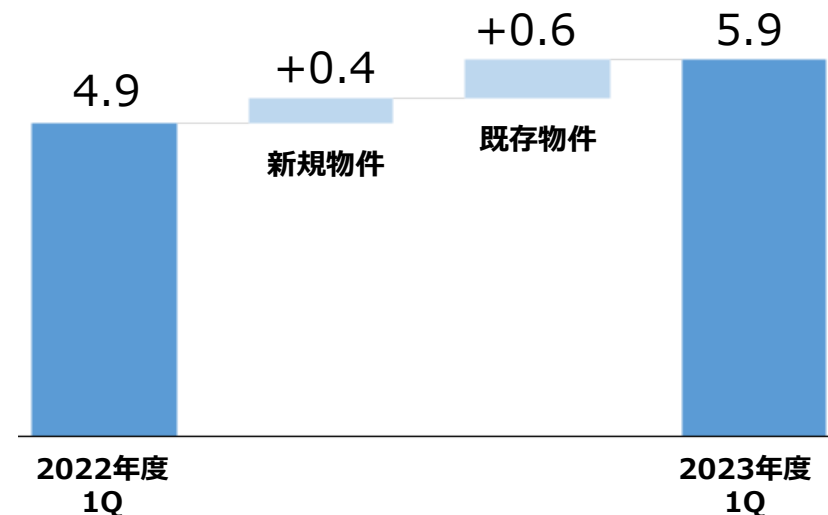
前年度に竣工した新規物件等の収益貢献や、賃貸ビル等の既存物件へのテナント誘致により、増収増益。

(単位：億円)

	2023年度 1Q	2022年度 1Q	増減	
営業収益	5.9	4.9	+1.0	(+20.3%)
営業利益	1.8	1.2	+0.6	(+53.2%)

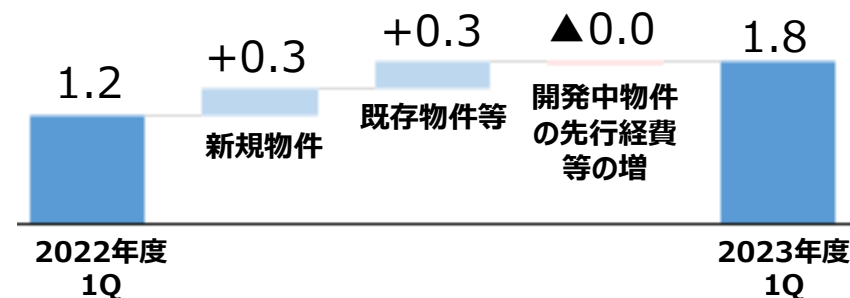
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益



5-(3). 都市開発事業の主な取り組み

駅周辺や沿線において、交通の価値向上につながる開発を推進。
当社の戦略的拠点となる大阪城東部地区の開発についても推進。

メトライズタワー大阪上本町

2022年7月に分譲を開始し、現在、
第3期分譲中。
多彩なショッピング施設、公私の教育機関
が集積した、アクセスの良いエリアに立地。
下層階には商業施設を誘致し、敷地内
には地域に開かれた広場を設置。



(仮称) 中央区森ノ宮マンションプロジェクト

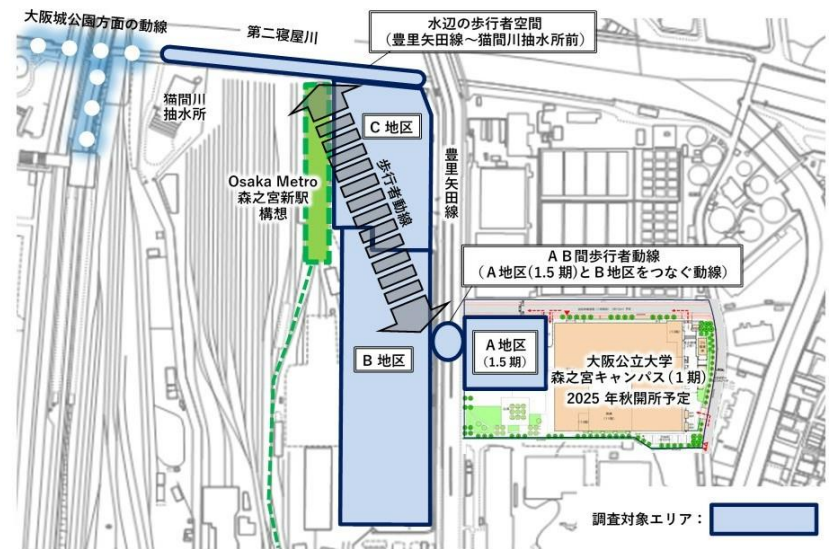
中央線「森ノ宮」駅徒歩5分の立地に
「METRISE」ブランド第2号の物件で、
Osaka Metro単独事業主としては
初となる地上15階・総戸数98戸の
分譲マンションを2023年3月に着工。
(竣工は2024年12月末予定。)

2023年5月より販売広告を開始。



森之宮拠点開発

大阪城東部地区の1.5期開発に向け、大阪府・
大阪市・公立大学法人大阪と共同で実施する
マーケットサウンディング（市場調査）に向けて
提案募集を開始。



5-(4). 2023年度第1四半期 広告事業の状況

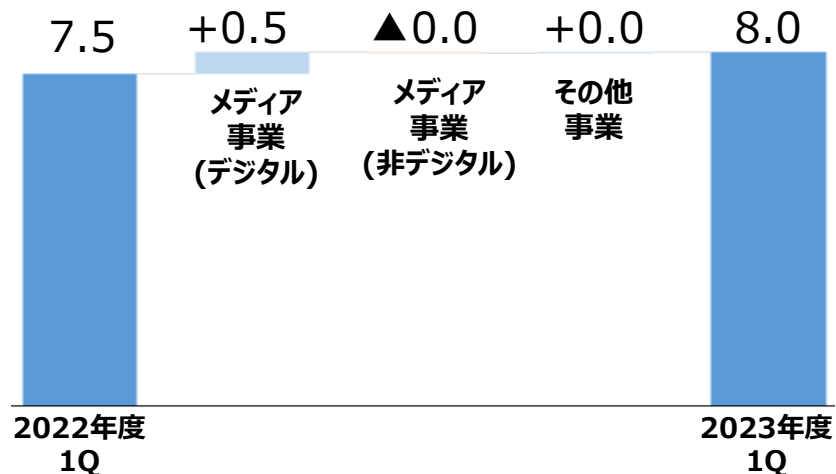
デジタル広告（駅サイネージ）の拡充に取り組んだことにより、増収増益。

(単位：億円)

	2023年度 1Q	2022年度 1Q	増減	
営業収益	8.0	7.5	+0.5	(+6.6%)
営業利益	1.1	1.0	+0.2	(+18.3%)

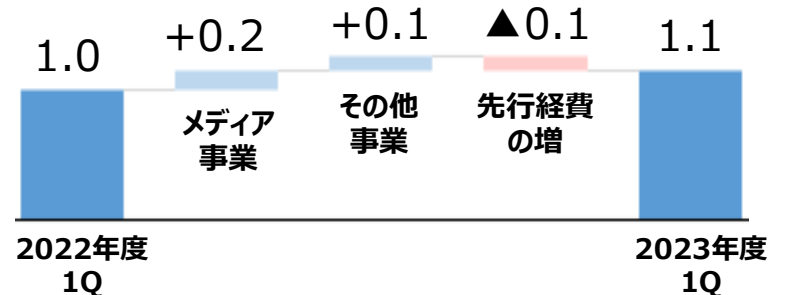
(単位：億円)

営業収益



(単位：億円)

営業利益



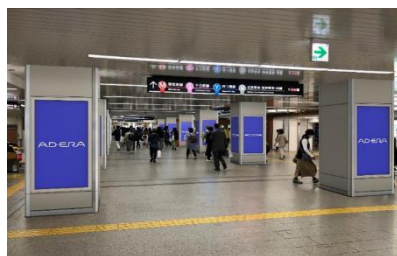
5-(4). 広告事業の主な取り組み

交通広告のDX化や新規メディア開発などの事業拡大とともに、生活者や事業者の多様なニーズにスピーディーにお応えする事業を推進。

メディア事業

<新規メディア開発>

2023年4月から、なんば駅の柱電照看板の販売を開始。



なんば駅の22m大型LEDビジョンなど、新規メディアの開発を実施。



(2023年8月設置)

新規事業

<オープンイノベーションの取り組み>

沿線事業者（観光など）へ、AR・VRなどのソリューションを備えたサービスを提供。来客促進やサービス活性化の可能性を実験。天王寺動物園でVR体験サービス(PoC)「空から！水の中から！バーチャル冒険隊」を開催。

大阪の“人の魅力”を価値化することで出会いと交流を創出する新サービス「aeruOsaka(あえるおおさか)」を開始。大阪の人の魅力にフォーカスした新しいメディアや、人と人を繋ぐ体験コンテンツを展開。2023年7月にリリースイベントを開催し、サービスをローンチ。



6. 連結貸借対照表

76億円の投資を実施。(うち、可動式ホーム柵設置工事や車両新造等の安全投資43億円)
有利子負債は、120億円圧縮し、財務健全性を確保。

(単位：億円)

	2023年度 1Q末	2022年度末	増減	主な増減要因
資産	9,671	9,845	▲174	
流動資産	559	750	▲191	現金及び預金 ▲159
固定資産	9,111	9,095	+16	
負債	4,116	4,383	▲268	
流動負債	1,911	2,178	▲267	未払金 ▲155 コマーシャルペーパー ▲120
固定負債	2,205	2,205	▲1	
純資産	5,555	5,462	+93	
現金及び 現金同等物	345	504	▲159	
有利子負債	3,531	3,651	▲120	コマーシャルペーパー ▲120
ネット有利子負債	3,186	3,147	+39	
自己資本	5,488	5,397	+92	

7. 2023年度 通期予想について

事業活動は概ね計画通り進捗しており、前回発表の通期予想は据え置き。

(単位：億円)

	2023年度 計画	2022年度 実績	増減
営業収益	1,840	1,614	+226
営業費用	1,580	1,423	+157
営業利益	260	191	+69
営業外損益	3	6	▲3
経常利益	263	197	+66
特別損益	24	24	+0
法人税等	92	70	+22
親会社株主に帰属する 当期純利益	195	151	+44



**Osaka Metro
Group**